

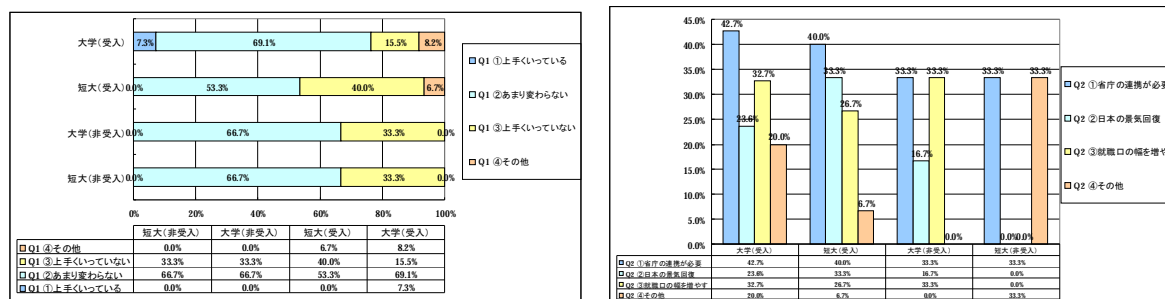
## News Release 大学・短大の留学生受け入れに関する調査

株式会社さんぽう（本社：東京都渋谷区 代表取締役社長 渡辺王雄）では、「留学生 30 万人計画」を大学・短大がどのように受け止めているか、また、留学生を取り巻く現状を明らかにするため、大学・短大の留学生状況について調査を行いました。この度、調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

### ■政府の「30 万人計画」の影響はあまりないものの、期待は大きい。

「政府の 30 万人計画」について「上手くいっている」との回答があったのは留学生を受け入れている大学の 7.3%のみでした。「あまり変わらない」との回答が最多。意見としても、「中長期的にながめる必要あり」、「今後の計画の推進に期待している」との回答があり、多くの大学、短大がまだまだ実感していないものの、期待はしているという状況が見えます。

また、必要な対策としては「省庁の連携が必要」とあるとの回答が最多となりました。



### ■留学生の問題点は「日本語の語学力」

既に入學している留学生の問題点について聞いたところ、「日本語の習得度の低い学生が多い」との回答が最多（大学 26.4%、短大 33.3%）となりました。また、留学生と大学・短大とのミスマッチの原因としても、留学生を受け入れている大学の 52.7%、短大の 46.7%が、留学生の「日本語の習得が十分でない」ことをあげています。

### ■日本企業への就職希望者は増加傾向。採用意欲はやや減少。

留学生の日本企業への就職希望者が増えている（大学 41.8%、短大 60%）傾向があるものの、留学生を受け入れている大学の 37.3%、短大の 46.7%が企業側の採用意欲はやや減っていると答えています。

本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

株式会社さんぽう 教育総合研究所 担当：石田 03-3378-7977

[a-ishida@sanpou-s.net](mailto:a-ishida@sanpou-s.net)

(調査概要)

調査期間：2009年7月9日～7月31日

調査方法：FAXによる調査（n=141）

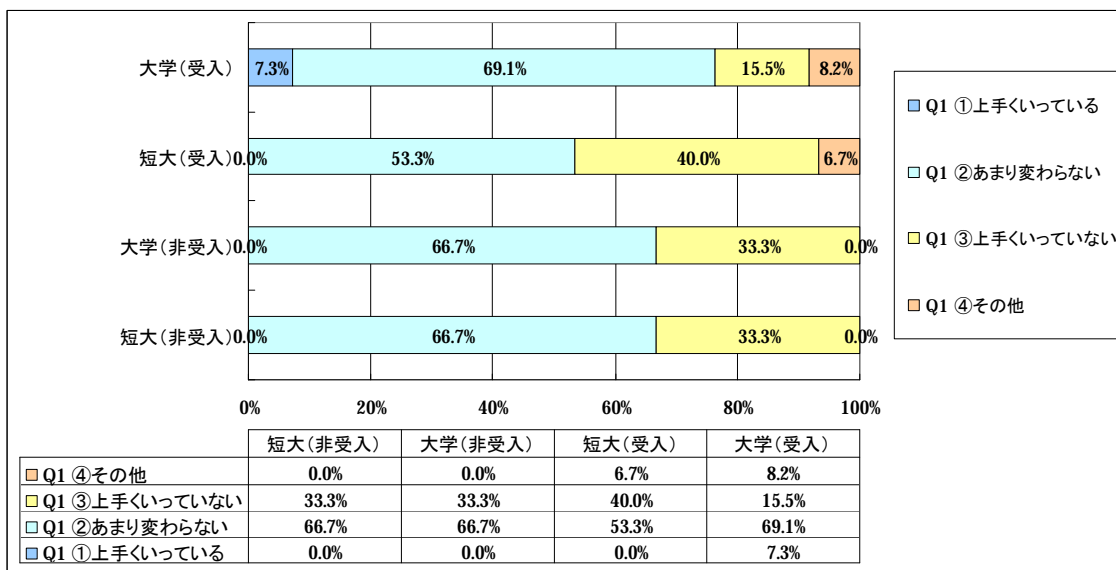
(調査報告書)

■政府の「30万人計画」推進に関して

【30万人計画の進捗】

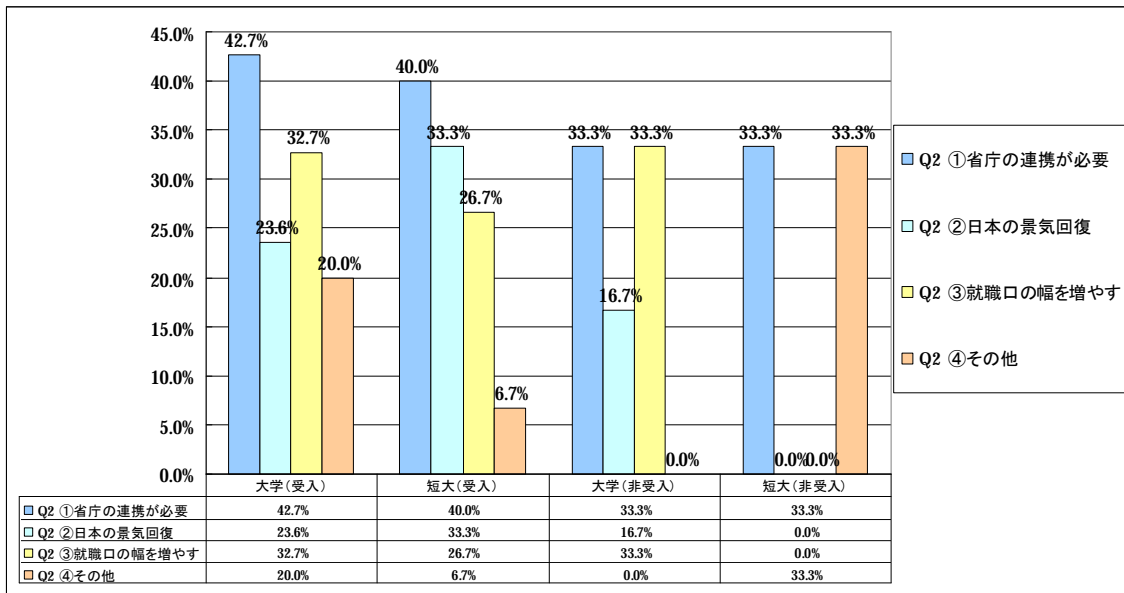
「政府の30万人計画」について「上手くいっている」との回答があったのは留学生を受け入れている大学の7.3%のみでした。「あまり変わらない」との回答が最多。意見としても、「中長期的にながめる必要あり」、「今後の計画の推進に期待している」との回答があり、多くの大学、短大がまだまだ実感していないものの、期待はしているという状況が見えます。

また、「上手くいっていない」との回答については、留学生を受け入れている大学では15.5%、短大では40%と、大学と短大で差が大きくなっています。30万人計画や留学生の志向が、短大よりも大学にとって有利な背景があると思われまます。留学生を受け入れていない大学、短大の回答状況については同等でした。



【30万人計画の更なる推進に必要な対策】

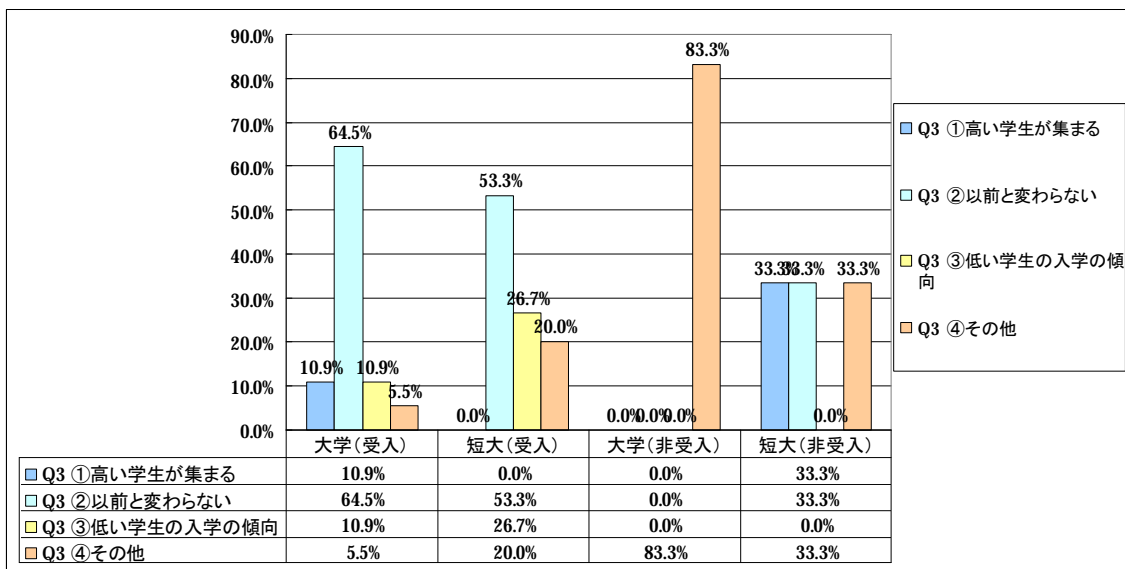
「30万人計画」の更なる推進に必要な対策について聞いてみたところ、「省庁の連携が必要」との回答が最多となりました。また、留学の受け入れている大学、受けいれていない大学ともに「日本の景気回復」よりも「就職口の幅を増やす」ことを重視している傾向がわかりました。



## ■留学生に関して

### 【入学希望者の学力レベルの変化】

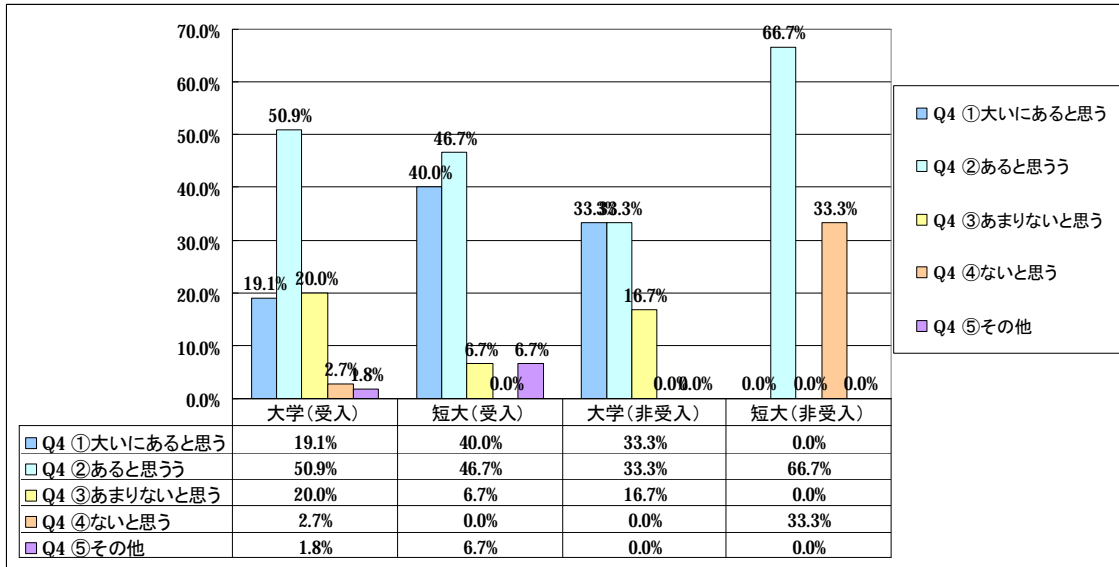
留学生の入学希望者の学力レベルの変化について、最多回答は「変わらない」との回答で、大学では**64.5%**、短大では**53.3%**でした。また、受け入れている大学の**10.9%**が「高い学生が集まる」ようになったと回答し、受け入れている短大の**26.7%**が「低い学生の入学の傾向」があると答えています。このことから、一部の大学では高い学生が集まるようになってきている傾向があり、短大では入学希望者の学力低下が見られました。日本への留学志望者が増えている背景を踏まえると、学力の高い学生は大学進学志望であり、学力の低い学生は短大進学志望であると考えられます。



【入学希望者への景気の影響】

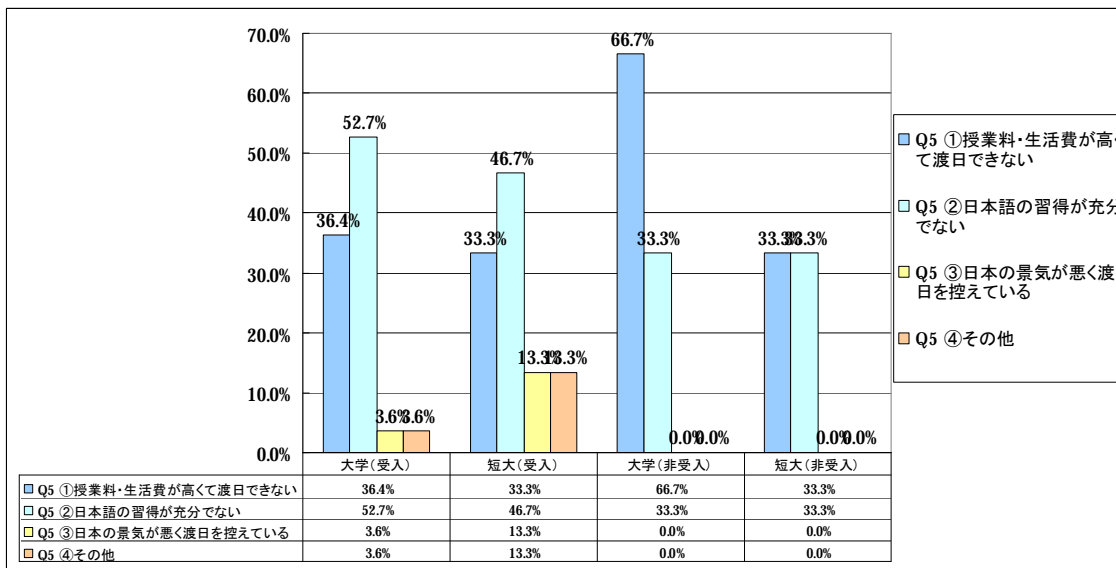
留学生の日本への渡航に際し、日本の景気の影響について、「大いにある」「ある」と思うと答えた留学生を受け入れている大学は **70%**、短大は **86.7%** ありました。留学生に対して、日本の景気の影響は非常に大きい状況が浮き彫りになった結果となりました。

意見として円高、為替レートの影響が大きいとの回答がありました。国によって影響度が異なる状況があるようです。



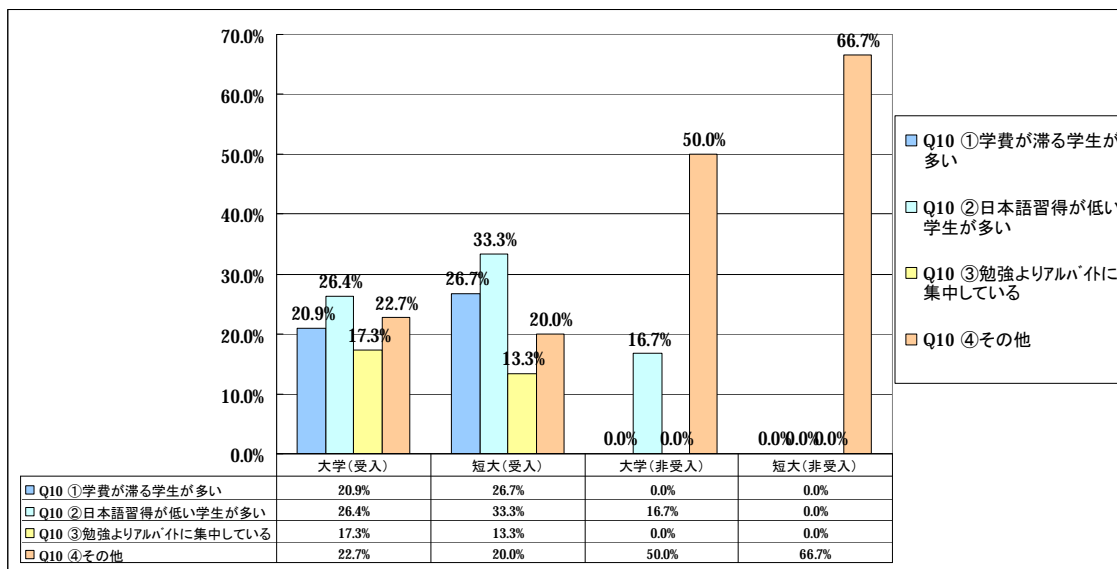
【留学生と大学側のミスマッチの原因】

留学生を受け入れている大学、短大の最多回答は、「日本語の習得が十分でない」ことをあげており、大学で **52.7%**、短大で **46.7%** でした。また、受け入れていない大学の **66.7%**、短大の **33.3%** が「授業料・生活費が高く渡日できない」と回答しています。授業料、生活費の高さが日本留学への障害と考えられるものの、実際、受け入れてみると、経済的なものよりも、日本語の習得状況が障害となっている状況が見えてきました。日本の大学、短大が期待している留学生の日本語の習得度に、実際の留学生の日本語の習得度が達していないと考えられます。



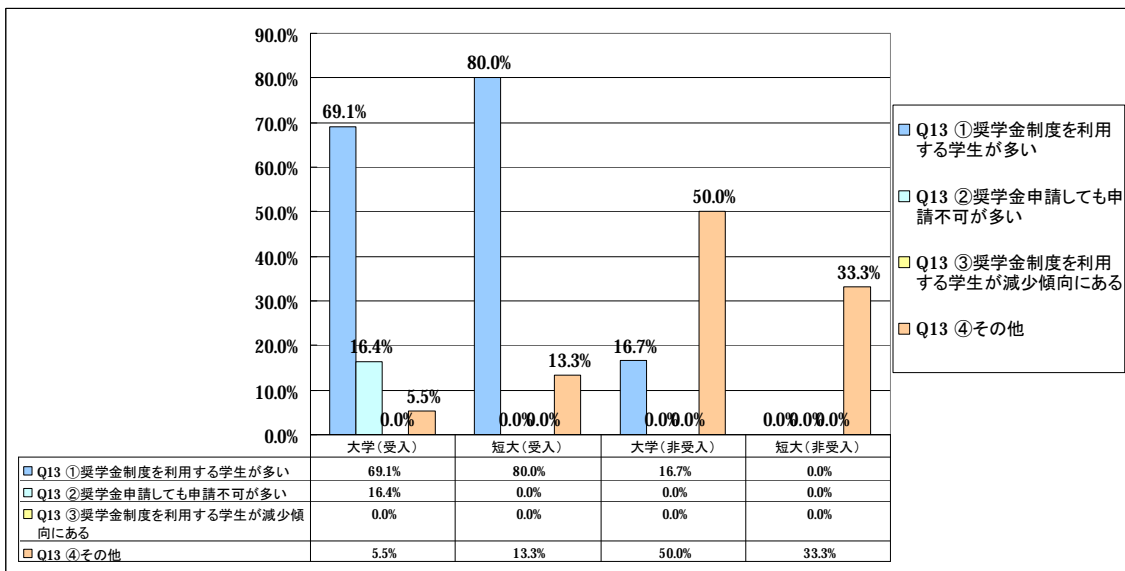
【留学生の問題点】

既に入學している留学生の問題点について聞いたところ、「日本語の習得度の低い学生が多い」との回答が最多（大学 **26.4%**、短大 **33.3%**）となりました。「日本語の習得度の低さ」が大きな問題になっており、大学、短大進学前の日本語の習得について問題がある状況が見えます。



### 【留学生の奨学金制度の利用状況】

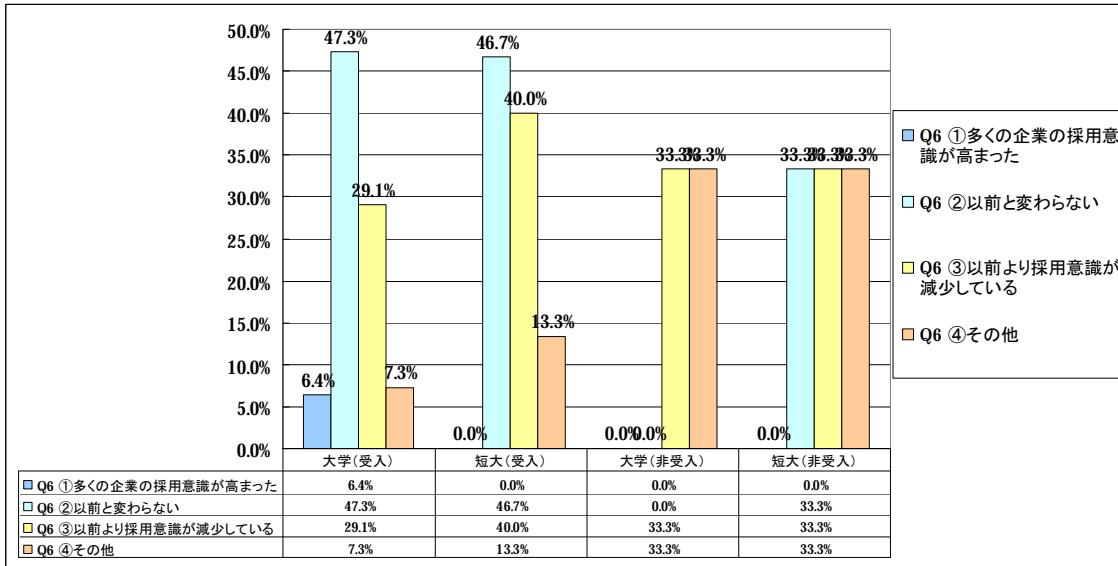
留学生の奨学金制度の利用状況については、「利用する学生が減少傾向にある」との回答はなく、多くの留学生が利用している状況でした。また、大学の**16.4%**が「奨学金申請をしても申請不可が多い」と答えており、奨学金申請が受けたくも受けられない留学生の存在があります。留学受け入れ数や実績数により、奨学金の利用可能状況が変わる背景もあり、留学生の受け入れ数や実績数が少ない大学においても奨学金が利用できる制度が求められていると思われます。



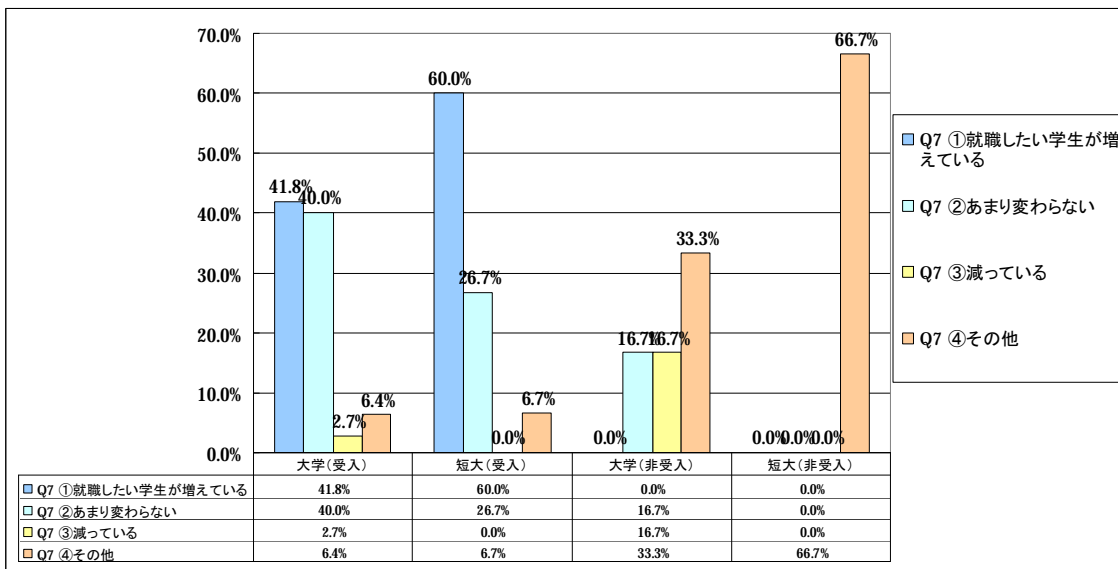
### 【留学生の就職環境】

留学生をとりまく就職環境と、就職に関する意識について聞いたところ、留学生の日本企業への就職希望者が増えている（大学**41.8%**、短大**60%**）傾向があるものの、実際の卒業後の就職状況は変化がなく（大学**47.3%**、短大**46.7%**）、企業側の採用意欲はやや減っている（大学**37.3%**、短大**46.7%**）状況が見えました。大学よりも、短大において、就職状況が厳しくなる傾向がでています。

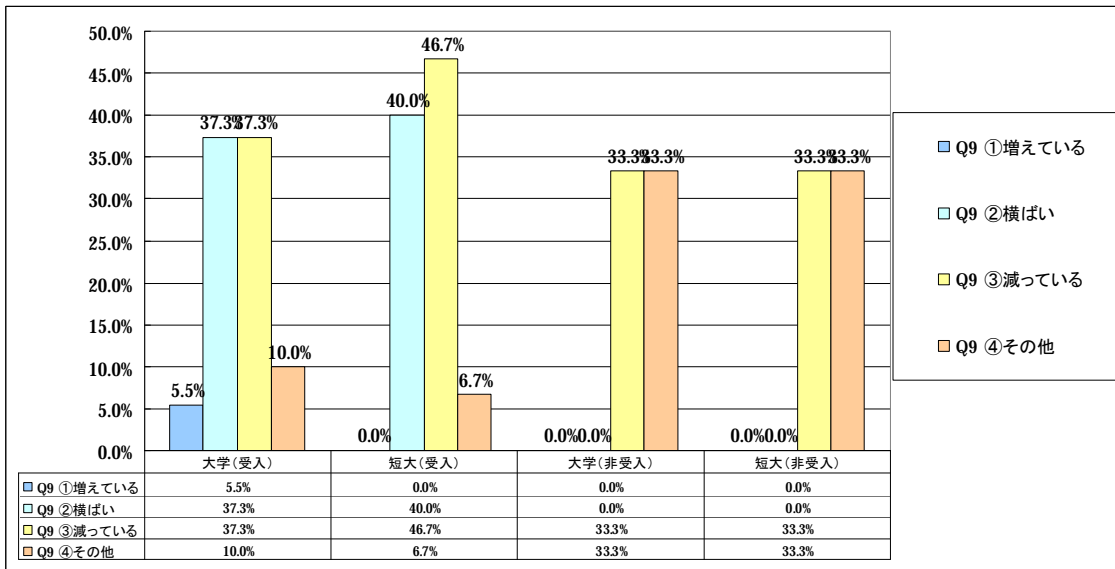
(卒業後の就職)



(日本企業への就職希望)



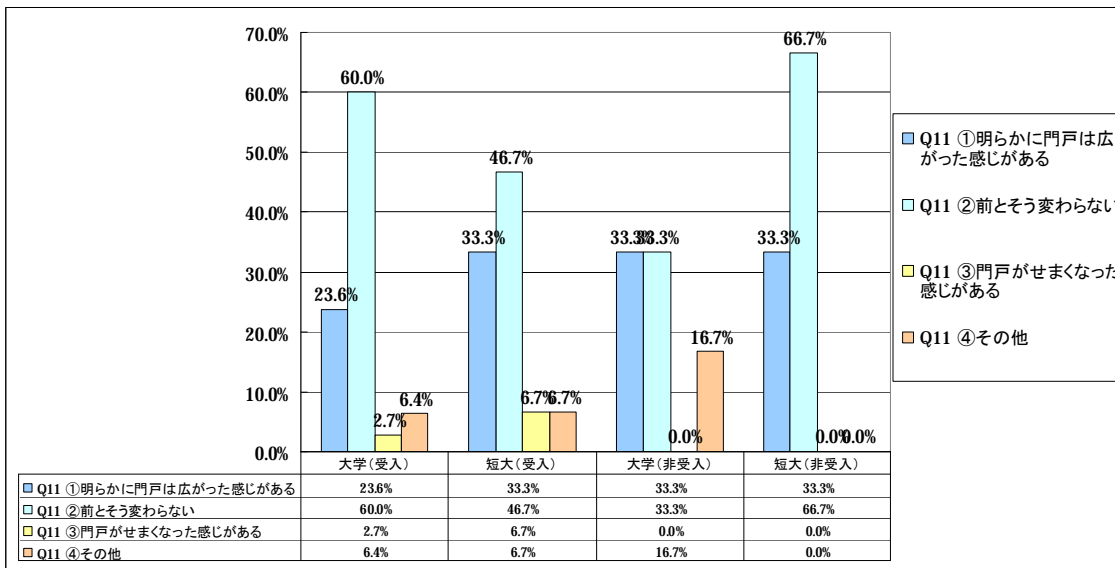
(企業側の採用意欲)



■留学生の入国

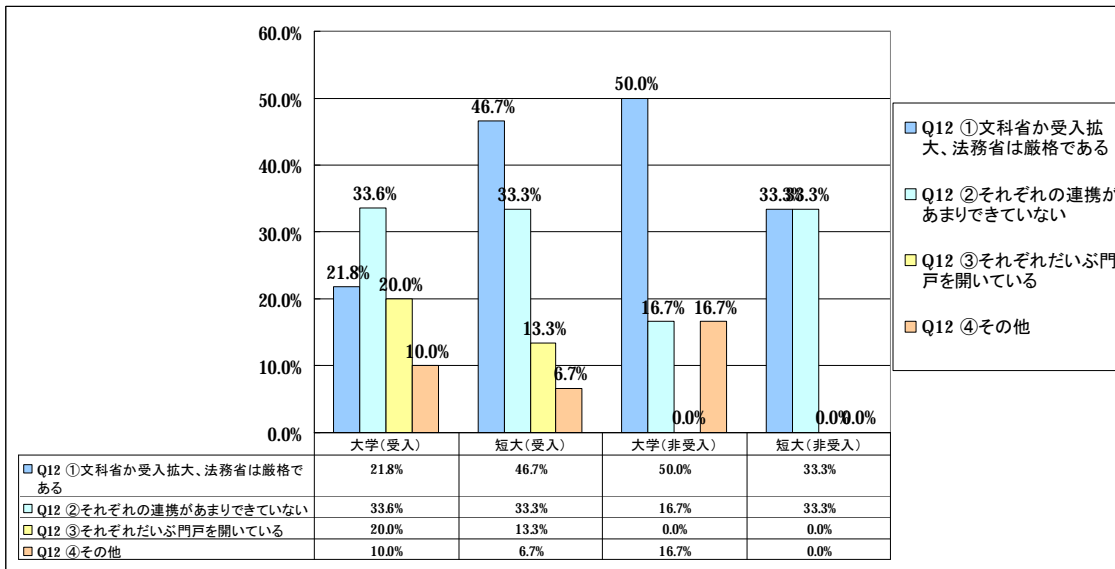
留学生の入国に関しての状況と関係省庁の影響について聞いたところ、留学受け入れの有無、大学、短大を問わず、以前と変わらないとの答えが最多となりました。また、関係省庁については、留学生を受け入れている大学の33.6%が文部科学省と法務省の連携が問題であると答えています。

【入国の門戸】





【文部科学省と法務省の影響】



■今後の留学生募集に関して

今後の留学生募集に関して、留学生を受け入れている大学では、積極的に留学情報を発信する（30%）、かわらずやっていく（60.9%）と、90.9%が今後も留学生を受け入れていく姿勢を示しています。また、受け入れている大学についても、16.7%が積極的に留学情報を発信するとしており、留学生の受け入れに対して積極的な傾向が見られます。

一方、短大では、留学生を受け入れている短大の全てが今後も変わらずやっていくと答えており、また、受け入れている短大についても26.7%が今後は様子を見たいとしており、留学生に対して消極的になっている傾向が見られます。

